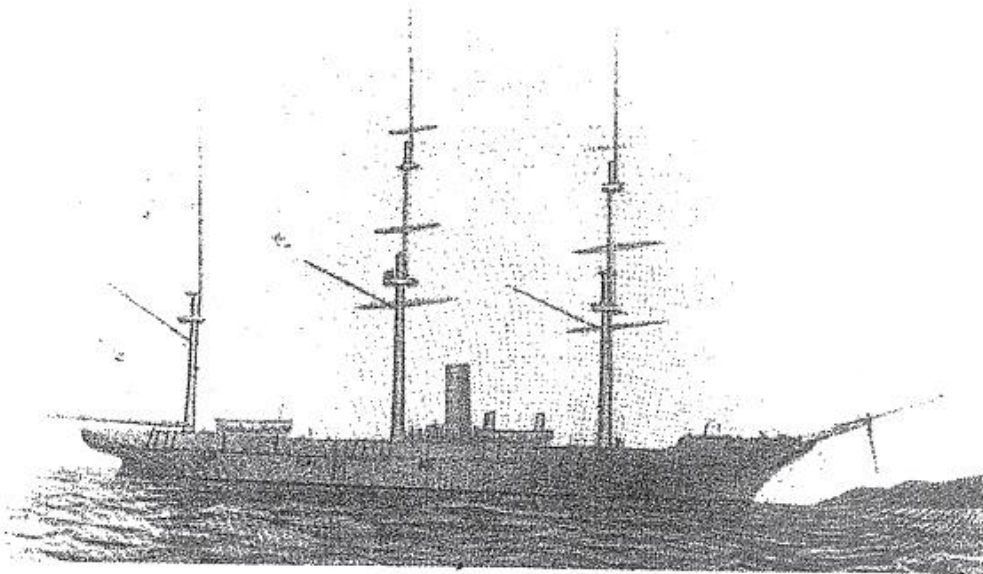


咸臨丸渡米 150 周年記念顕彰碑建立

除幕式

平成 22 年 10 月 24 日 (日)

丸亀市本島港



咸臨丸渡米 150 周年記念事業

本島実行委員会

# 威臨丸産米150周年記念顕彰碑建立

## 除幕式次第

日時 平成22年10月24日(日) 午前9時～10時

場所 本島港(観光案内所横)

進行 本島実行委員会事務局長 好井栄章

### 第一部 除幕式

- 1、開会の辞 本島地区地域づくり推進協議会顧問 織部清市
- 2、本島実行委員会代表挨拶 実行委員長 吉田智彦
- 3、除幕並びに開眼法要
  - ★除幕 来賓及び宮本、入江、織部、吉田智、森中、吉田豊
  - ★法要 宝性寺、正覚院、常福寺、及び来迎寺住職
  - ★焼香 来賓、招待者及び寄付者
- 4、来賓祝辞
  - 1)、丸亀市長 新井哲二
  - 2)、香川県副知事 高木孝征
  - 3)、丸亀市議会議員 高木新仁
  - 4)、丸亀市議会議員 岡田健悟
  - 5)、丸亀市教育委員会教育長 岩根新太郎
  - 6)、香川県議会議員代表 山田正芳
  - 7)、今治造船(株)代表取締役副社長 黒川節弘
  - 8)、威臨丸子孫の会幹事方 藤本増夫
- 5、感謝状贈呈 本島実行委員長 吉田智彦
- 6、謝辞 本島校区連合自治会会長 宮本孝
- 7、乾杯 笠島まち並保存協力会会長 森中恒夫
- 8、閉会 好井栄章

### 第二部 講演会 午前10時半～12時(会場 本島小学校体育館)

『威臨丸と塩飽』 講師入江幸一(郷土史家 塩飽史談会会長)

(敬称 略)  
以上

## 《碑文》

日米修好通商条約批准の使節団が、米艦ポーハタン号に乗船して渡米するに伴い、その随行と遠洋航海実習のため、幕府軍艦威臨丸が、万延元年（一八六〇）一月十九日、サンフランシスコ目指して浦賀を出航した。威臨丸には、軍艦奉行木村稔津守・艦將勝麟太郎以下九六人と、近海で遭難し今回送還する米人一人が同乗した。乗組水夫五〇人中三五人が塩飽の出身であった。

威臨丸は出航直後から大暴風に遭遇し、航程三七日の大半は木の葉のごとく翻弄され、船室に潮が打ち込み炊事もできぬ難航海であったが、乗組員の懸命の努力と、米人の協力によつて二月二十六日かろうじてサンフランシスコに到着した。航海中病人が続出し、広島青木の源之助、佐柳島の富蔵ら水夫三人が海軍病院で死亡した。

帰路は天候に恵まれ、五月五日無事浦賀に入港し大任を果たすことができた。

威臨丸の渡米は、日本船による初の太平洋横断として、わが国の海運史上に残る壮挙であった。渡米百五十周年にあたり、ここに世紀の大業に活躍した塩飽水夫の名をとどめ、その功績を永く讀えんとするものである。

時代の變遷により長い鎖国政策を放棄して、開国を決定した徳川幕府は、新海軍を創設すべく、浦賀においてわが国最初の洋式軍艦鳳凰丸を建造し、長崎に海軍伝習所を設立して、鎮光丸・威臨丸を練習艦とし、若き幕臣らにオランダ人教官から洋式海軍の伝習を受けさせた。その節、古来幕府の御用船方を勤め、航海操船技術に高い評価を得ていた塩飽に対し、軍艦を操縦する水夫の徵募を求めたのである。

塩飽衆は、国恩に報いるはこのときと思ひ定め、嘉永六年（一八五三）より文久三年（一八六三）に至る間、塩飽一二五〇石の所領に対する軍役として、島民から張銀（臨時課金）を徴収し、水夫一人五兩の年俸と旅費を支給して、毎年數十人の壮丁を選抜し、軍艦乗組員として送り続けた。威臨丸の水夫もその一員である。

幕府海軍創設の陰に、塩飽島民の大きな奉仕があつたことは世に知られていない。

幕府の徵用に応じた水夫達は、やがて明治の海運界の各層に進出し、新時代の発展に大きく寄与することになった。

名	姓	歳	出身地
兵吉	豊島	四五	本島笠島
善三郎			同
清之助	高島		同
吉之助	岩村		同
実次郎	大熊	二四	同
政太郎	石川	二六	同
大助	石川		同
松太郎	横井	一八	同
延次郎	松尾	四〇	同
角之丞	宮本	三一	同
宮三郎	平尾		同
幸三郎	大倉	一九	同
金左衛門	高橋		同
滝藏	郡家	二一	同
幸吉		三九	同
仁作	曾根		同
弥十郎	松井		同
国彦	東井		同
源次郎	平田	三三	同
友吉			同
和三郎	森		同
寅吉	森		同
仁助	向井		同
伊三郎	山下		同
源之助	岡田	二五	同
富藏	岡田	二七	同
常三郎	前田	二六	同
吉松		四六	同
清右衛門			同
竹菰	玉谷	四〇	同
好平			同
音吉			同
勘次郎		二二	同
治作		二二	同
善四郎		二三	同

## 咸臨丸はどんな軍艦だったか

咸臨丸は、安政2年(1855)に幕府がオランダに注文した軍艦です。安政4年(1857)オランダのカンテルク市で建造し、同年8月5日に長崎に入港し、幕府に引き渡されました。

船長約50メートル、船幅約7メートル、100馬力、蒸気螺旋仕掛、三本マスト、約625トンの洋式木造船で、大砲12門を備えていました。オランダではヤッパン号と呼んでいたが、日本にて咸臨丸と改名しました。

現在、本島＝丸亀航路に就航しているフェリー船“ほんじま丸”とほぼ同じ大きさです。

## それからの咸臨丸

- |              |   |
|--------------|---|
| 万延年(1860)5月  | 咸臨丸が浦賀に到着する。                                    |
| 文久元年(1861)1月 | 咸臨丸が小笠原移民を乗せて航海する。                              |
| 々2年(1862)8月  | オランダ留学生の古川庄八(瀬戸島出身)山下岩吉(高見島出身)らに乗せた咸臨丸が本島に寄港する。 |
| 慶応二年(1866)2月 | 咸臨丸が機関を取り外し帆船となる。                               |
| 明治元年(1868)9月 | 榎本武揚に従い江戸を出港したが悪天候のため、清水港に漂着し官軍に拿捕される。          |
| 々2年(1869)8月  | 咸臨丸が北海道開拓使の御用船となる。                              |
| 々4年(1871)7月  | 咸臨丸が民間会社の所有となる。                                 |
| 々4年(1871)9月  | 咸臨丸が北海道更木岬木古内沖で暗礁に乗り上げ破損沈没する。                   |

幕府軍艦  
「咸臨丸」塩飽水夫讃歌（十二語句・文型）

咸臨丸は艦<sup>ふなで</sup>出して 浦賀水道<sup>かえ</sup>返り見る 潮路<sup>はる</sup>遙かな行き先は  
アメリカ國<sup>こく</sup>のサンフラに（サンフランシスコ） 波をけたてて太平洋  
群青<sup>ぐんじょう</sup>の海はてしなく いずこを<sup>み</sup>視ても島はない・・・  
水夫小頭<sup>そら</sup>雲<sup>み</sup>を窺て 波濤の予感<sup>むなざわ</sup>胸騒ぎ 時化<sup>しけ</sup>は時化<sup>しけ</sup>でも大嵐  
波浪<sup>はろうさかま</sup>逆巻<sup>しぶき</sup>き雨飛沫 金刀比羅<sup>こんびら</sup>さまに祈れども 無情の嵐容赦なし  
寝るに眠れず夢も見ず 立って歩くもままならず 避難するとて寄るべなく  
飲まず喰わずの長<sup>なが</sup>の航海<sup>たび</sup> 後の日誌<sup>のち</sup>に強がり<sup>しる</sup>を 記し残してさりげなし  
あの怒濤<sup>とき</sup>誰も決死なり 往きはジョン万・ブルックに  
操艦<sup>ちから</sup>を借りて<sup>たど</sup>迎り着く 着いた港のメリケンで（アメリカ）  
歓迎<sup>うたげ</sup>宴<sup>ふねしごと</sup>のもてなしも 水夫方には艦修理・・・  
床に伏せたる三人は 佐柳富蔵二十七 広島青木の源之助 肥前<sup>ひぜん</sup>長崎峯吉と  
疲労困憊<sup>こんばい</sup>呼吸弱く 異國で黄泉路<sup>よみじ</sup>いたわしや かたみの遺髪・・・ああ無念  
使命を果たし帰航艦<sup>かえりぶね</sup> 二泊三日のハワイ島 わずかの碇泊<sup>やすみ</sup>ホノルルに  
意気軒昂<sup>けんこう</sup>なお武家衆 偉業<sup>と</sup>遂げたと自負すれど 塩飽水夫と長崎の  
操艦<sup>そうせん</sup>技術あればこそ 帰國のあとは何事か・・・

（幕末の動乱、七年後・明治元年となる）

姓（名字）もなき水夫時代<sup>とき</sup>過ぎて 確かな事績<sup>あかしな</sup>名<sup>のこ</sup>を遺す

# 名芳御者付寄

東京	大阪	神戶	横濱	名古屋	京都	福岡	仙台	札幌	旭川	網走	釧路	帯広	富山	石川	福井	岐阜	愛知	三重	滋賀	京都府	大阪府	兵庫県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県
東京	大阪	神戶	横濱	名古屋	京都	福岡	仙台	札幌	旭川	網走	釧路	帯広	富山	石川	福井	岐阜	愛知	三重	滋賀	京都府	大阪府	兵庫県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県
東京	大阪	神戶	横濱	名古屋	京都	福岡	仙台	札幌	旭川	網走	釧路	帯広	富山	石川	福井	岐阜	愛知	三重	滋賀	京都府	大阪府	兵庫県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県
東京	大阪	神戶	横濱	名古屋	京都	福岡	仙台	札幌	旭川	網走	釧路	帯広	富山	石川	福井	岐阜	愛知	三重	滋賀	京都府	大阪府	兵庫県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県
東京	大阪	神戶	横濱	名古屋	京都	福岡	仙台	札幌	旭川	網走	釧路	帯広	富山	石川	福井	岐阜	愛知	三重	滋賀	京都府	大阪府	兵庫県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県
東京	大阪	神戶	横濱	名古屋	京都	福岡	仙台	札幌	旭川	網走	釧路	帯広	富山	石川	福井	岐阜	愛知	三重	滋賀	京都府	大阪府	兵庫県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	高松市	尾道市	広島市	山口県	岡山県	香川県	愛媛県	高知県	徳島県